



# SENSHOJI YUKARI NEWSLETTER

1994-2024

ゆかり通信

VOL. 320

令和 6 年 9 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竇山 千正寺

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

## 2024年千正寺カレンダー 9月の言葉



帰ってゆくべき世界は、  
今逢う光によって知らされる

(浅井成海氏)

目が見えず、耳が聞こえず、言葉を話せない。三重苦をおった「ヘレン・ケラー」さんの話を知っている人は多いと思います。

1880年アメリカでお生まれになり、1968年87歳のご生涯で、1歳7ヶ月の時病気になり、その高熱の後遺症で目・耳・言葉が話せないようになり、6歳の時にサリバン先生との出会いで、言葉を話せるようになり、大学を卒業してからは障害者福祉の発展にご尽力なされ、日本にも3度来日したことがあるそうです。

ヘレン・ケラーさんが80歳の時にある記者がこういう質問をされたそうです。「もし神様が目と口と耳のいずれかを正常にしてあげる、と言われたら、どれが欲しいか？」その問いにヘレン・ケラーさんは「耳がほしい。」と答えられたそうです。その理由は「心に光が入るのは耳からだからです。」と仰ったといいます。ここで言う「光」とは、目で見える光ではなく、感動や希望、「ほっ」と安心する気持ちと言うことで、ヘレン・ケラーさんは耳から聞こえる言葉によって心に光が入ると仰っておられます。

仏教では「光」は智慧の象徴であり、浄土真宗では阿弥陀様の救いを表す代名詞です。月参りでお勤めする親鸞聖人がお書きになった「正信偈」にも12の光で、阿弥陀様の救いを味わっておられます。ですから今月の言葉の「光」とは阿弥陀様の救いを表し、「今逢う」とは「聞く」ということ「今逢う光」とは、阿弥陀様の救いを聞かせていただく今ということです。

私の帰って行くべき世界は、阿弥陀様の救いを聞かせていただく今、知らされ、阿弥陀様の救いを聞かせていただく今救われている、「ただ今の救い」を味あわれている言葉と聞かせて頂いています。

(本文：鹿谷賢純法務員)